



児童図書研究室だより

令和6年3月26日 発行

Vol. 24

2023年 国内子どもの本に関する賞

賞		タイトル	著者	出版社	出版年	請求記号
日本絵本賞	大賞	PIHOTEK:北極を風と歩く	荻田泰永/文 井上奈奈/絵	講談社	2022.8	E/イ/
	絵本賞	がっこうにまにあわない	ザ・キャビンカンパニー/作・絵	あかね書房	2022.6	E/サキ/
		ねことことり	たてのひろし/作 なかの真実/絵	世界文化ブックス	2022.10	E/ナカ/
		橋の上で	湯本香樹実/文 酒井駒子/絵	河出書房新社	2022.9	E/サカ/
坪田譲治文学賞		成瀬は天下を取りに行く	宮島未奈/著	新潮社	2023.3	F82-135/ナル23/
講談社絵本賞	絵本賞	なきむしせいとく	たじまゆきひこ/作	童心社	2022.4	E/タン/
産経児童出版文化賞	大賞	新装版 車のいろは空のいろは 4 ゆめでもいい	あまんきみこ/作 黒井健/絵	ポプラ社	2022.11	C913/アマ/4
	JR賞	「オードリー・タン」の誕生 誰も取り残さない台湾の天才IT相	石崎洋司/著	講談社	2022.4	C289/ホ/
	タイヘイ賞	ぼくとお山と羊のセーター	飯野和好/作	偕成社	2022.10	E/イ/
	美術賞	川まつりの夜	岩城範枝/作 出久根育/絵	フレーベル館	2022.8	E/テク/
	産経新聞社賞	ひろしまの満月	中澤晶子/作 ささめやゆき/絵	小峰書店	2022.6	C913/ナカ/
	フジテレビ賞	エツコさん	屋田弥子/作 光用千春/絵	アリス館	2022.12	C913/ヒル/
	ニッポン放送賞	なりたいわたし	村上しいこ/作 北澤平祐/絵	フレーベル館	2022.10	C913/ムラ/
	翻訳作品賞	カメラにうつらなかつた真実 3人の写真家が見た日系人収容所	エリザベス・パートリッジ/文 ローレン・タマキ/絵	徳間書店	2022.12	C334/ハ/
	翻訳作品賞	ことばとふたり	ジョン・エガード/ぶん きたむらさとし/え・やく	岩波書店	2022.9	E/キタ/
奨励賞	貝のふしぎ発見記	武田晋一/写真・文	少年写真新聞社	2022.6	C484/タ/	
日本児童文学者協会賞		マスク越しのおはよう	山本悦子/著 田中海帆/絵	講談社	2022.9	C913/ヤマ/
日本児童文学者協会新人賞		黒紙の魔術師と白銀の龍	鳥美山貴子/著	講談社	2022.9	C913/トリ/
日本児童文芸家協会賞		スクラッチ	歌代朔/作	あかね書房	2022.6	C913/ウタ/
児童文芸新人賞		星屑すぴりっと	林けんじろう/著	講談社	2022.8	C913/ハヤ/
小学館児童出版文化賞		風さわぐ北のまちから	遠藤みえ子/著 石井勉/絵	佼成出版社	2022.6	C913/エン/
		恋とそれとあと全部	住野よる/著	文藝春秋	2023.2	F41-90/コ123/
		ちいさなトガリネズミ	みやこしあきこ/作	偕成社	2022.11	C913/ミヤ/
ひろすけ童話賞		やまの動物病院	なかがわちひろ/作・絵	徳間書店	2022.8	C913/ナカ/
小川未明文学賞	大賞	今日もピアノ・ピアノ (※受賞時のタイトルは「小さな僕のメロディ」)	有本綾/作 今日マチ子/絵	Gakken	2023.12	C913/アリ/
野間児童文芸賞		※該当なし(2023年度) 【特別賞】はやみねかおる氏				
けんぶち絵本の里大賞	大賞	かみはこんなにくちやくちやだけど	ヨシタケシンスケ/作・絵	白泉社	2022.4	E/ヨシ/
	びばからす賞	ビックブック おめんです3	いしかわこうじ/作・絵	偕成社	2023.1	E/イシ/3
		パンしろくま	柴田ケイコ/作・絵	PHP研究所	2022.8	E/シハ/
	アルパカ賞	戦争をやめた人たち 1914年のクリスマス休戦	鈴木まもる/文・絵	あすなる書房	2022.5	E/スス/
ニッサン童話と絵本のグランプリ	童話の部大賞	あたしは本をよまない	コウタリリン/作 ちばみなこ/絵	BL出版	2023.12	E/チハ/
	絵本の部大賞	なんかひとりおおくない?	うめはらまんな	BL出版	2023.12	E/ウメ/

令和5年度 第3回ボランティアスキルアップ講座

令和5年9月15日 岡山県立図書館を会場に、令和5年度第3回県立図書館ボランティアスキルアップ講座（児童サービス支援コース）を開催しました。



「加藤休ミが絵本を描くことは、
クレヨンで描くこと。」

講師 加藤休ミ 氏
(絵本作家)

今回は、絵本作家の加藤休ミ氏を講師に迎え、絵本制作の現場や取材の様子、作品に込めた思いなどをお話いただきました。ここではその一部をご紹介します。

加藤氏の作品は、全てクレヨンをベースに、クレパスを重ねる技法で描かれています。取材の時には、基本的にその場でのデッサンはせず、記録程度に撮影した写真と、自身の記憶から描いているそうです。写真やデッサンでは、生の記憶が飛んでしまうからとのことでした。『おさかないちば』（講談社）制作の際には、事前に時代背景などの情報を頭に入れてから、築地市場で2、3度取材をされたそうです。エビを扱う人の手が摩擦して指紋がなくなっている様子、腰が曲がりっぱなしになったお婆さんなど、作品に取り入れたい情報を、時間や場所に囚われず1枚に入れ込めるのが絵画の良さとおっしゃっていました。講座の最後には、全て記憶のみで描かれたという自身のロンドン旅行記の一部も紹介されましたが、緻密に描かれたタワーブリッジやレストランでの1コマなど、臨場感のあるスケッチばかりでした。

また、『きょうのごはん』（偕成社）など、料理の絵が登場する作品を多く出版されていますが、描く食べ物はできるだけ実際に作り、作れない場合にも必ず自分で食べてから制作に取りかかるそうです。例えば『きょうのごはん』のカレーライスの絵は、加藤氏自作のカレーをモデルにしている、昭和の大家族の節約料理のイメージから、鶏胸肉を使用して作ったものとのこと。 「作品を見て、食べた時の感覚が甦れば、その作品は完成。」という言葉が印象的でした。

男の子と赤いボールとのお話を描いた『ぼーるとぼくとくも』（風濤社）は、食べ物のおはなし以外のものを作りたいという思いから制作されたそうです。この作品は、作曲家の方とタイアップして、オリジナルソングを作っていたいただいたことで、その曲をBGMとして流しながら読み聞かせを実演されました。他にも、英語に凝っていることから生まれた『フライパンヤア』（講談社）の読み聞かせも実演していただき、英語のような響きを含ませたオノマトペを楽しみました。

他にも、『りきしのほし』（イースト・プレス）を描いたのはマイブームがきっかけだったことや、『いただきます。ごちそうさま。』（あさの あつこ／作 加藤 休ミ／絵 岩崎書店）のように、絵本作家でない方と組んで絵本を作る時には、お互いに寄り添うのではなく、闘志を燃やし合う気持ちで取り組むことなど、いくつかの作品を取り上げて制作秘話をお伺いできました。

今年度は新見市立中央図書館で子ども向けのワークショップを開催されたそうです。「おおきな魚をかこう!」と題し、参加者に魚のウロコや骨を思い思いに描いてもらい、1匹の大きな魚を完成させるものです。できあがった作品は、当日の様子が分かる写真とともに、後日県立図書館でも掲示しました。クレパスは力のない人でも絵が描けるように作られているとのこと、加藤氏の技法に合うワークショップであるように感じました。

今回の講座では、絵本作家の方々がどのような思いで絵本を制作し、私たちの手元に届いているのか、また、子どもたちと向き合う時の姿勢などを作家自身からお伺いすることで、作品一つ一つに対する理解が深まり、絵本の持つ力をあらためて感じることができました。

展示「角野栄子 児童文学館 OPEN 記念」

2023年11月9日～2024年1月8日まで、児童図書研究室展示1のスペースで、「角野栄子 児童文学館OPEN記念」と題して展示を行いました。「魔法の文学館（江戸川区角野栄子児童文学館）」は、2018年に角野氏が国際アンデルセン賞に選出されたことを受け、角野氏の功績をたたえる機能、児童文学に親しむ機能、想像力や創造力を育む体験機能を合わせ持った場所として、2023年11月3日に、東京都江戸川区に開館しました。

展示では、角野栄子の略年譜で生涯を振り返るとともに、著作の絵本や児童図書、研究書を集めました。展示の様子と関連資料をご紹介します。

1 角野栄子

1935年に東京で生まれ、3歳から23歳までを江戸川区北小岩で過ごしました。出版社勤務を経て24歳からブラジルに2年間滞在します。その後、ブラジルでの体験を元に書いた『ルイジニョ少年 ブラジルをたずねて』で、1970年作家デビューします。代表作『魔女の宅急便』は1989年にスタジオジブリ作品としてアニメーション映画化されました。2018年、児童文学の「小さなノーベル賞」と言われる国際アンデルセン賞作家賞を受賞し、翌年には江戸川区区民栄誉賞を受賞しました。

2 代表的な作品

『魔女の宅急便』シリーズ（角野 栄子／作 林 明子／画 1985年～ 福音館書店）

魔女のキキ。魔女の世界では、13歳で両親のもとを離れ、まだ魔女がいない場所をさがして、1年間、持っている魔法を使って一人暮らしという約束事があります。13歳になったキキは、その約束事に従って、ほうきにラジオをぶら下げて、一人で冒険の旅に出ます。

この作品は、自身の娘さんが中学生の頃に描いた1枚の魔女の絵をヒントに、現代っ子の魔女を主人公にしたお話が書きたいという思いから作られました。スタジオジブリより映画化されたことから、多くの人に親しまれているお話です。

1985年に第1作が出版され、2009年にその6で完結を迎えましたが、シリーズに登場した脇役たちや、コリコの町の住人たちをクローズアップした「特別編」として新シリーズが誕生しています。



『小さなおばけシリーズ』（角野 栄子／さく 佐々木 洋子／え 1979年～ ポプラ社）

1973年に出版された『スパゲッティがたべたいよう』を皮切りに、現在も毎年新刊が発行され続けているロングセラー・シリーズです。レストランに住む食いしん坊のアッチと、床屋に住むおしゃれなコッチ、飴屋に住む歌の好きなソッチという3人のおばけが登場し、いつもドキドキワクワクするようなことが起こります。

子どもだけでなく、小さい頃から読んでいた大人たちにも愛され、世代を越えて読み継がれています。このシリーズも、テレビアニメ化され人気を博しました。

3 魔法の児童文学館

魔法の文学館は、角野栄子氏の作品と功績を多くの人に伝えるため、また未来を担う子どもたちが児童文学に親しみ、豊かな想像力を育む場となるために開館した児童文学館です。なぎさ公園の丘に建つ、隈研吾氏の設計による純白の建物の中には、『魔女の宅急便』の舞台となったいちご色の「コリコの町」が広がり、壁一面に映し出されるプロジェクションマッピングや4面映像の「黒猫シアター」など、楽しい仕掛けがあふれています。「おうち形」の本棚に囲まれたライブラリーには、角野氏の著作はもちろんのこと、角野氏が自ら選んだ世界の児童書や絵本が、子どもたちの自主性を活かすべく敢えてあまり分類せずに配架されており、子どもたちは自由に本を選び、好きな場所で、お気に入りの本を読むことができます。

<参考文献>

角野栄子『角野栄子エブリデイマジック』平凡社、2019.8

魔法の文学館 <https://kikismuseum.jp>

児童図書研究書の紹介

2023年に発行された児童図書研究書のうち、下記の7点をご紹介します。

『現代日本子ども読書史図鑑』

佐藤 宗子、久米 依子／編 柊風舎／発行 2023年 請求記号 019.5/卅 23/ 資料番号 0016397457

子どもの本は、これまでどのように発展し、どのように変化してきたのでしょうか。本書は、1950年から1999年までに刊行された児童書と児童文学批評約600作品を年代順に並べ、一作品一頁で解説しています。20世紀後半の児童書の出版状況や時代背景などが通覧できます。子どもが読んできた本はもちろん、児童文学に関わる大人に影響を与えたであろう論評集も紹介されており、子どもの読書から時代や社会が見えてきます。

『絵本まるごといただきま〜す! スギヤマカナヨのワークショップ』

スギヤマ カナヨ／著 子どもの未来社／発行 2023年 請求記号 019.53/ㄗ 23/ 資料番号 0016499618

絵本は絵やお話を楽しむだけでなく視線を変えて工夫をすると様々な楽しみ方ができるものです。本書は、絵本作家のスギヤマカナヨさんが自身の絵本を使ったワークショップについて紹介した一冊です。スイカの手紙を作って送ったり、町をつくったり、図書館カルタであそんだり…。岡山市の小学校での実践も紹介されています。

『絵本のまにまに』

長野 ヒデ子／著 石風社／発行 2023年 請求記号 726.601/ㄏ 23/ 資料番号 0016015471

絵本や紙芝居を数多く手がけている長野ヒデ子さん。本書は、長野さんがこれまでに雑誌や新聞などへ寄せた文章をまとめたエッセイ集です。幼少期を自然の中で過ごし、本に触れる機会の多かった自身の体験や、絵本作家や児童文学作家など親交のある人とのエピソード、絵本や紙芝居創作への思いなどが綴られています。「絵本も紙芝居も無くてはならない人の体を創る『ごはん』のようなものだと思う」と語る長野さんの心意気が伝わる一冊です。

『絵本★百貨典』

谷川 俊太郎／[著] ブルーシープ／発行 2023年 請求記号 911.52/ㄗ 23/ 資料番号 0016488967

本書は、2023年開催の「谷川俊太郎 絵本★百貨展」の公式図録です。1956年に20代で自費出版した『絵本』から、最新作の『ここはおうち』まで全172作を網羅し、一冊ずつ丁寧に作品の見どころを紹介しています。谷川氏へのインタビューも多数収録されており、詩人であり絵本作家でもある谷川俊太郎氏のことばを見つめ直すことができます。

『戦争と平和 子どもと読みたい絵本ガイド』

草谷 桂子／著 子どもの未来社／発行 2023年 請求記号 319.8/ㄗ 23/ 資料番号 0016364135

戦争はある日突然、理由もなく起こるものではありません。本書は、小さな子ども達にも戦争という重たいテーマが優しく伝わるような絵本を紹介したガイドブックです。「ちがいを」をテーマにした絵本から戦争が起こるきっかけを考えたり、「友達」や「いのち」をテーマにした本から平和について考えたり、テーマや年齢に合わせた絵本が約300冊紹介されています。大人にとっても、戦争と平和について考えるきっかけになる一冊です。

『一冊の絵本 大人になった今だからわかること』

木村 美幸／著 径書房／発行 2023年 請求記号 019.53/ㄏ 23/ 資料番号 0016524530

本書は、長年編集者として絵本を作ってきた著者が、大人の心に響く作品を厳選して紹介した、大人のための絵本ガイドです。「心の解放」「言葉の力」など16のテーマに分類された絵本を、1冊ずつ丁寧に、絵本作家たちのエピソードにも触れながら紹介しています。絵本の中身はもちろん、絵本作家たちのことを知ることで、より奥深い絵本の魅力を味わうことができます。

『生きるための絵本 命生まれるときから命尽きるときまでの絵本127冊』

正置 友子／著 風間書房 2023年 請求記号 019.53/ㄗ 23/ 資料番号 0016578353

本書は、「絵本は日常を豊かに生きるための芸術」と語る著者が、これまでの人生で出会った絵本を厳選して紹介した一冊です。生まれてすぐの赤ちゃんから大人まで、年齢別に全部で127冊の絵本を紹介しています。著者自身の経験談などを交えながら、一冊ずつ丁寧に作品の魅力が語られており、命生まれるときから命尽きる時まで、生涯に渡って絵本を楽しんでほしいという著者の思いがこめられています。絵本は人から人へ、世代から世代へと伝えることができます。

発行日 令和6年3月26日発行

発行 岡山県立図書館 サービス第一課 児童資料班

〒700-0823 岡山県岡山市北区丸の内2-6-30 Tel : 086-224-1288 Fax : 086-224-1208